



此書附 八千八百七十年十一月廿五日倫敦ニ於

大正十一年四月
限侯爵郵寄贈

者上野大藏大丞ト京偶維廣街第六十番ノ家ニ
住スルカル、ドンドルフ氏ト取結ヘル約定書
ニテ右ノ上野氏ハ即チ天皇殿下ト日本政府ト
ノ為以下総テ日本ドンドルフ氏ハメイソノフ
ラシクホルトノヒ、ドンドルフ氏及ビハウマ
シス氏ノ活版會社以下総テ右ノ活版師等ト稱スノ為ニ取扱
フ所ナリ

叔右ノ約定ヲ取結ヘル趣意ハ今般日本政府是

マテ紙幣ニ印セシ仕方ヲ改革シ容易ニ之ヲ質
造スルノナラヌ様ニ極メテ精好ナル仕方ニ
テ製造セル新紙幣ヲ施行セント決定シ右ノ活
版師等ニ託シテ之ヲ製造刷印セシムルカ為ニ
双方ノ間ニ取結ヘル事トナリタルナリ其件々
ハ即チ次ニ載スルカ如シ

第一條

右ノ活版師等今般日本政府ニテ施行セシマ
欲スル百圓五十圓十圓五圓二圓二方及一圓ト
五十匁二十匁十匁トノ諸類ノ新紙幣ヲ最好ノ

物品ヲ用ヒ最上ノ仕法ニテ器量一杯ニ妙巧ヲ
著ハシテ之ヲ製シ之ヲ印シ且之ヲ仕上ケヘキ
約定ノ事

第二條

紙幣ノ仕上ケハ左ノ如ク「エ」「ビ」「シ」ノ三類ニ分テリ
「エ」ノ類ニ属スル者ハ最初ニ表ニハフランクホ
ルトニテシ子ルプレッセントロツクト名クル仕方
ニテ之ヲ印シ裏ニモ亦右ノ通りニ印シ次ニ表
ニハ同處ニテブットロツクト唱フル仕方ニテ之
ヲ印シ裏ニハ番号ニ通リト日本文字ヲ記ス事

「ビ」ノ類ニ属スル者ハ最初ニ「シ」子ルフレッセンド
ロツクラ用ヒ次ニハ「シ」子ルフレッセントロツクノミヲ
用ヒ裏ニハ番号ニ通リト日本文字ヲ記ス事
「シ」ノ類ニ属スルモノハ表ニ「ビ」類ノゴトキ仕
方ニテ印シ裏ニハ唯一度ブツブドロツクラ用ヒ且
番号一通リト日本文字ヲ記ス事

第三條

然テ紙幣ノ料ニハ麻ヲ用ヒ道具仕掛ニテ截テ
且輾轆ヲ掛ケテ平滑ニシタル紙ヲ用フヘキ事

第四條

右ニ用フル紙ト紙幣ノ模様及ヒ色取等ハ逐一右

ノ委任使者及ヒ其他ノ日本役人等委任使者及ヒ役
任使者等ノ前ニ差出シ其點檢ヲ受クヘキ事
ト称ス

第五條

右ノ一旦點檢ヲ受ケタル模様色取等ノ見本一
揃并ニ初刷ニ揃リタル紙幣ノ見本一揃ハ日本政
府ヘ送ル為ニ右ノ委任使者ニ渡スヘシ又別ニ右
ノ如クニ一揃ノ見本ヲ設ケ後日ノ爭論ノ起リタ
ル時ノ見合セノ為フランクホルトニテ立合人ヲ頼
ミ委任使者活版師等ト右立合人トニテ時々右
ノ見本ヲ封藏シ其納レ物ノ上ニ皆調印スヘキ事

第六條

紙幣ノ番号ハ一ヨリ九千九百九十九マテ日本
文字ニテ順ヲ逐テ番号ヲ用フヘク且此番号ハ
九千九百九十九番ニ至リテ一組ノ終トシ是ヨ
リ又其号ヲ變フヘキ事

第七條

紙幣ノ九ツノ種類ハ四通リノ大キサニ仕立ヘシ
第一
五十匁二十匁十匁ノ紙幣ハ幅英ノ二インチト
八分一長サ三インチ半

第二

一圓ト二圓ニ方ノ紙幣トハ幅英ノ二インチト
八分六長サ四インチ半

第三

五圓ト十圓ノ紙幣ハ幅英ノ三インチト八分ノ
三長サ五インチ半

第四号

五十圓百圓ノ紙幣ハ幅英ノ四インチト八分一
長サ六インチ半

但シ右紙幣ノ大サ最初製造ノ節間違ナク出来

上リタルモハ製造ノ後僅ノ伸縮アルトモ之ヲ擇リ除クヘカラサル事

第八條

刷印シテ渡スヘキ紙幣ノ數ハ七千五百五十四万枚其譯左ノ如シ

百圓ノ紙幣 二万枚

五十圓ノ紙幣 二万枚

十圓ノ紙幣 五十万枚

五圓ノ紙幣 百万枚

二圓二方ノ紙幣 二百万枚

一圓ノ紙幣 二千万枚

五十匁ノ紙幣 千二百万枚

二十匁ノ紙幣 二千万枚

十匁ノ紙幣 二千万枚

右總計七千五百五十四万枚

第九條

右紙幣ヲ成丈ケ早ク施行スル事方今日日本政府ノ為ニ最モ大切ナレハ右ニ載セタル諸種ノ紙幣ヲ盡ク仕上ケ委任使者ノ見本ヲ點檢シタル

日ヨリ十八ヶ月一年ノ内ニフランクホルトニ於

テ荷積シ鐵道ヨリ日本政府へ急度差送ルヘキ
約定ナリ若シ右期限ノ間全數出来シ日本政府
へ届カヌ時ハ其出来シテ到着スルマテ一週日
ナリ或ハ其間幾日ナリ其日數ノ割合ヲ以テ出
来セサル數丈ノ五分ノ手間賃ヲ引下ケヘシ又
其後ニモ尚全數到着セサレハ其延期ノ償金ト
シテ又是ヨリ日數ノ割合ヲ以テ手間賃ヲ引ク
事前ノコトクスヘキ事

第十條

右ノ活板師等ハ總テ右紙幣ヲ製造スル職人其

外使用スル者等ニ至ルマテ盡クフヲシテホ
ルトニ於テ相當ノ役人ノ目前ニテ急度不正道
ノ所為之ナキ様ニ定メ通リノ式ヲ用テ誓言ヲ
為サシムヘシ又右製造場ハ一切ニシテ委任使
者活板師及其局ノ支配人必要ノ職人器械方其
外前ノ如ク誓約ヲ為シタル者ノ外ハ決シテ外
人ヲ入ルヲ許サス尤高貴ノ人ノミ折節出入ヲ
許スヘシ乍去是モ右支配人ト同道スルニ非レ
ハ許スヘカラス且總テ右局ト局中ニテ為ス所
ノ仕事機器道具類ハ定マリタル時日ニ於テ委

任使者及ヒ其他ノ日本政府ノ名代人等ヲシテ
自在ニ點檢セシムヘキ事

第十一條

右ノ活板師等紙幣製造ノ場處ニハ晝夜番人ヲ
附置怠リナク嚴重ニ警衛セシメ尚番人等カ油
断ナキヲ證セシメンカ為ニ合表時辰^{テイル}ハ
時辰ノ如ク十二ノ時ヲ表示セル者ニテ其指針
人ノ揺カスニ非レハ動カス嚴重ニ警衛セシム
巡テ其處ニ到リ已レカ時辰ト合セ見テ其時表
者ノ夜中不意ニ針ヲ揺カシ示サシメ番人ヲ命シテ
持ノ時辰ト同シ處ヲ巡見シ數處ノ針大抵番人所
否ヤヲ見テ其勤怠ヲ知ルナリヤヲ用ヒシムヘシ

且又委任使者ヨリ右製造ノ事ハ勿論其外ノ枝
葉ノ事ニ附テモ極メテ慥カナル事ヲ要スルカ
為ニ何々ノ事ハ無クテ叶ハス何々ハ致ス方便
利ナリト時々申出サル、ケ條ハ必ス採用フ可
レ但シ右申出サル、ケ條ニテモ仕事ノ障リニ
ナリ或ハ仕上ケノ期限ヲ遲延スル様ナル事ハ
所望致サルマシキ事

第十二條

紙幣ヲ刷印スル板或ハ活字ニハ二箇ノ秘符ヲ
記シ置クヘシ其一ハ日本政府ノ役人ノ用フル

所ノ者ヲ記スヘシ尤此秘符ハ總躰ニ預テ大ナル雛形ヲ造リ置之ヲ見合スレハ眞實ノ分ル様ニスベシ又一ハ唯日本政府ニノニ傳ヘ知ラシムベシ但シ右ノ秘符ヲ作ルモノハ唯二人ノ職人ニ任シ仕事ノ終ルマテハ二人共互ニ右ノ役ヲ任セラレタル事ヲ知ラシムヘカラス或ハ其間ハ二人共互ニ相接セシメサルヘキ事

第十三條

紙幣ノ出来ノ上其出来十分ナラス或ハ出来宜シカラサレハフランクホルトニ在留スル委任

使者之ヲ擇リ分ケ差戻ストモ又既ニ日本ニ受取タル後ニ擇分ケ差戻ストモ勝手タルヘシ且其節ハ右活板師等自身ノ費用ニテ之ヲ改造シ早々引替フヘシ尤此約定面ノ通り紙幣ヲ送りタル最後ノ日ヨリ七ヶ月ノ内ニ活板師等へ申越サル、ニ非レハ之ヲ引替ヘサル事

第十四條

右之擇戻シタル事ニ付此約定ノケ條ニ合ヒ合ハサルノ爭論日本政府ト右ノ活板師ノ間ニ生ルカ或ハ此約定ノ事ニ付他ノ爭論起ル時ハ本

地ニ於テ三人ノ裁判人ヲ擇ンテ判決セシムヘ
シ但シ右三人ノ裁判人ノ一人ハ日本政府ノ方
ヨリ擇ミ一人ハ活板師ノ方ヨリ擇ミ一人ハ双
方ヨリ擇マレタル二人ノ裁判人之ヲ擇ムヘシ
尤之ヲ擇フニ二人同意セヌ時ハバンク、オフ、イ
ン克蘭ト英國為ノ支配人ニ託シテ之ヲ擇マ
シムヘシ且三人ノ内二人同意セハ其説ニ從テ
裁判スベキ事

第十五條

總テフランクホルトニテ紙幣ヲ製造スルカ為

ニ用フル所ノ機噐諸道具物品等ハ皆右活板師
ヨリ代料ヲ拂フ可キ事

第十六條

日本政府ヨリハ右ノ活板師等ニ紙幣ノ形ト板
及ヒ雛形ノ費用三万六千フロリンスヲ拂フヘ
シ其外

| | | | |
|------|----|------------|-------------|
| 工号ノ類 | 第四 | 即百圓ノ紙幣每千枚 | 三十六フロリンス |
| 同 | 第三 | 即十圓ノ紙幣每千枚 | 二十四フロリンス |
| 同 | 第二 | 即二圓ノ紙幣每千枚 | 十二フロリンスト五分三 |
| 同 | 第一 | 即五十文ノ紙幣每千枚 | 九フロリンスト五分三 |

ヲ拂フヘキ事

第十七條

紙幣ハ錫ノ箱ニ納メ上ニ木ノ箱ヲ被ツセ其上
ニ二條ノ鎖ノ竈ヲ丈夫ニ掛クヘシ尤荷作リノ
入用ハ日本政府ヨリ盡ク拂フヘシ其拂方ハ前
金ニセス又分割モ出サス唯真ノ入用ノミヲ拂
フカ或ハ他ノ仕方ニテ拂フヘキ事

第十八條

總テ紙幣ハ倫敦ニ於テオリールバンク
ノ會社ニ渡ス可シ若シ日本政府ヨリ請ハルニ

於テハ日本政府ノフランクホルト倫敦又ハト
リエステニ居ル者ニ渡スベシ且右渡方相濟ム
マテハ紛失其外ノ事アル時ハ活板師等其責ニ
任スベシ然レ之ヲ渡ス事ニ付テノ入費ハ日本
政府ニテ之ヲ拂フベキ事

第十九條

日本政府ヨリハ活板ト諸紙幣ノ費用ヲ左ノ如
ク拂フベシ即チ活板料三万六千フロリンスハ
六ヶ月ノ終ニ拂フベク諸紙幣ノ料ハ二百万枚
以上日本ニ送リタル度毎ニ拂フベキ事

第二十條

諸拂向ハ日本政府ノ為ニ倫敦ノオリインター
ルバンク會社ヨリ致スベシ尤モ是ハフランク
ホルトニ於テ南日耳曼ノフロリンス錢ヲ用フ
ルカ又ハ不日ニ引替ノ出来ル為替手形ヲ用フ
ヘキ事

第二十一條

總テ何人ニテモ右紙幣或ハ紙幣ノ一部カ又ハ
其記号ヲ印記シ或ハ右紙幣ヲ印記スル仕法手
續ヲ全クカ又ハ其中何程カヲ慥ニ知り或ハ發

明セシムル諸物件或ハ何人ニテモ贋造ノ記号
ヲ印シ或ハ紙幣ヲ贋造セシメ又ハ之ヲ手傳フ
ヘキ諸物件ハフランクホルトニ於ル日本ノ委
任使者ニ屬スベキヲ以テ活板師ヨリ之ヲ引渡
スベシ否ヲサレハ委任使者ノ心ニ満足スル様
ニ之ヲ破壊スベシ
且右ノ活板師ハ總テ紙幣ニ押ス所ノ模様活字
鑿記等ヲ偽テ用ヒ或ハ不當ニ用フルヲ嚴重ニ
防クベシ若シ尚自身預リノ間ニ右様ノ事出来
タル時ハ其責ニ任スベキ事

第二十二條

總テ紙幣ノ模様或ハ活板ノ雛形等最早入用ニ
之ナキ時ハ活板師ヨリ委任使者ニ相渡シ永ク
日本政府ノ所有タルベキ事

第二十三條

總テ試ミノ為メ造リ置キタル活板活字等委任
使者立合ニテ其心ニ満足スルカ為ニ文字記号
ヲ削リ去リお壞リ不用ノ地金ノミ活板師等ノ
手ニ遺スベキ事

第二十四條

總テ定數ノ外ニ餘リタル紙幣或ハ出来損シタ
ル紙幣ハ委任使者立合ニテ之ヲ燒棄ツベキ事

第二十五條

日本政府ノ方ヨリ此約定ヲ仕遂クヘキ請合ト
シテ早速二十万フロリンスノ金高ヲフランク
ポルトノエム、エイ、ホニ、ロツチルド氏カ或ハ以後
日本政府ト活版師トノ連名ニテ共議スヘキ一
軒或ハ數軒ノ為替座ニ預ケ置クヘシ但シ右ノ
金高ハ此約定ヲ日本政府ニテ仕遂クルマテ預
ケ置キ其後ニ至リ活版師ノ手ヲ離レ日本政府

ニ返ル事ナリ尤日本政府ニテ之ヲ取返ス片ハ
委任使者或ハ此一ケ條ニ付別段ニ委任サレタ
ル日本役人ト活版師トノ連名ノ書面ヲ以テ右
ノ金高ニ利息ヲ添テ之ヲ為替座ヨリ取返スヘ
キ事

第二十六條

日本政府ノ安堵セラル、為ニ活版師等ヨリモ
亦此約定面ノ事ヲ仕遂ルマテ前同様ニ十万フ
ロリニスノ金高ヲ預ケ置クヘシ若此約定ノ通ニ
最初紙幣ヲ積送リタル後七ヶ月以内ニ約定ヲ

仕遂ケサル事ニ付日本政府ヨリ活版師等ヘ求
債ヲ為サ、ル片ハ活版師等右ノ金高ニ利息ヲ
添エテ為替座ヨリ之ヲ受取ルナシ且右ノ預金
ヲ活版師ノ受取ル事ニ付日本政府ヨリ倫敦或
ハフランクフルトニ別段掛リノ役人ヲ命シ置
クヘキ事

第二十七條

第十四條ニ載セタル裁判人等ハ前二條ニ載セ
タル預ケ金ノ中ヨリ拂方ヲ為スヘキ事ヲ裁断
スルノ全權ヲ有スヘキ事

第二十八條

倫敦ニ於テ此約定ヲ為スニ因テフヲニクホル
トニ於テモ本府ノ法度ニ循テ相應ノ約定ヲ直
ニ取結フヘシ但シ本府ニテ取結フヘキ約定ハ
法度モ自ラ異ル事故其丈ハ前ノ約定ヲ斟酌ス
ルカ又ハ日本政府ト活版師ト双方互ニ承諾ノ
上前ノ約定ヲ斟酌シテ取結フアルヘキ事

前ニ記セル年月日証トシテ姓名ヲ手記セリ

バロン、ホニ、シ、ボルト、手記、目前ニテ手記ス

日本國印

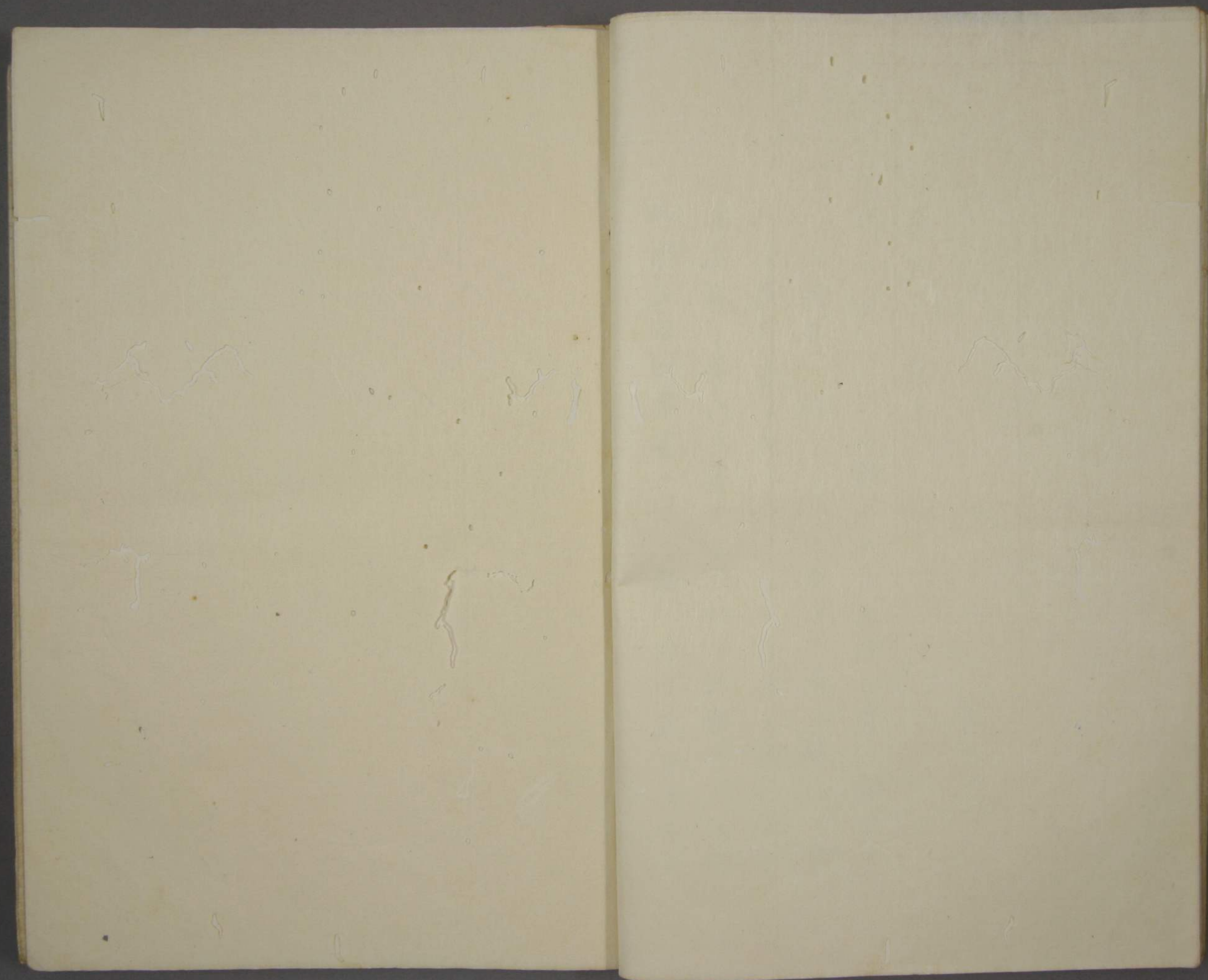
上野大藏大丞手記

ビドニドルフ會社ノ活版局ノ為ニ

カレドニドルフ手記

此原文字體草畧ニシテ讀ミ難キ處少カラス
且文章モ英人ノ書キタル如ク明瞭ナラス加
之ニ愚等素局外人ニシテ情態ヲ詳ニセサ
レハ推量ノ解ノミ多ク原文ノ意ニ背ケル所
往々之アルベシ讀人之ヲ諒察シ幸ニ譯者ヲ
尤ムルヲ勿レ

譯者誌



和
解
書
翰

大正十一年四月

一簡拝啓仕小然支 去月十五日私分書翰を以
申上並小通此度日本政府より為る新紙幣製造
定約書寫を通其許に相違し可申者カルジル氏
分は頼小石法達中此尚並る申上並小大旨に通レエ
氏并ミエルレンケル氏も其仲間者に拂出七万
ポンド受取書寫を又由達中尤右受取書本書
を其政府より為る小私方に慥に更取置中此以
申上居也

西一千九百二十一年一月六日

ジョセフリニセル

日本政府大藏卿閣下

日本政府運上借用金之事

一 余等會社が日本政府の爲め拂ひ多る七万
ポンドの金高を慥小致落手候其中五万七千
ポンドを記名エミール、エルレンゲルⁱⁿの拂高
并小壹万三千ポンドハハラシテ子ルソレ
エⁱⁿの拂高也且是迄我等が日本政府の用達金
百万ポンド并小錢道諸器械買入其外の爲に
三十万ポンド小付余等より^の求債悉く皆濟相
成候

記名エミール、エルレンゲルハ方今迄日本政

府の用達金に付きヘンリー・スクルーデルの
所需とふ所を右五万七千ポンドの金言乃内
より相拂可申候

記名ホラシタルソクレイハ取消相替候日
本政府とレイとの約定書をヲリイタルバ
ンク會社小相達置申候

千八百七十年第十二月六日 エミール・エルレンゲル 手記

ヘンリー・タルソクレイ 手記

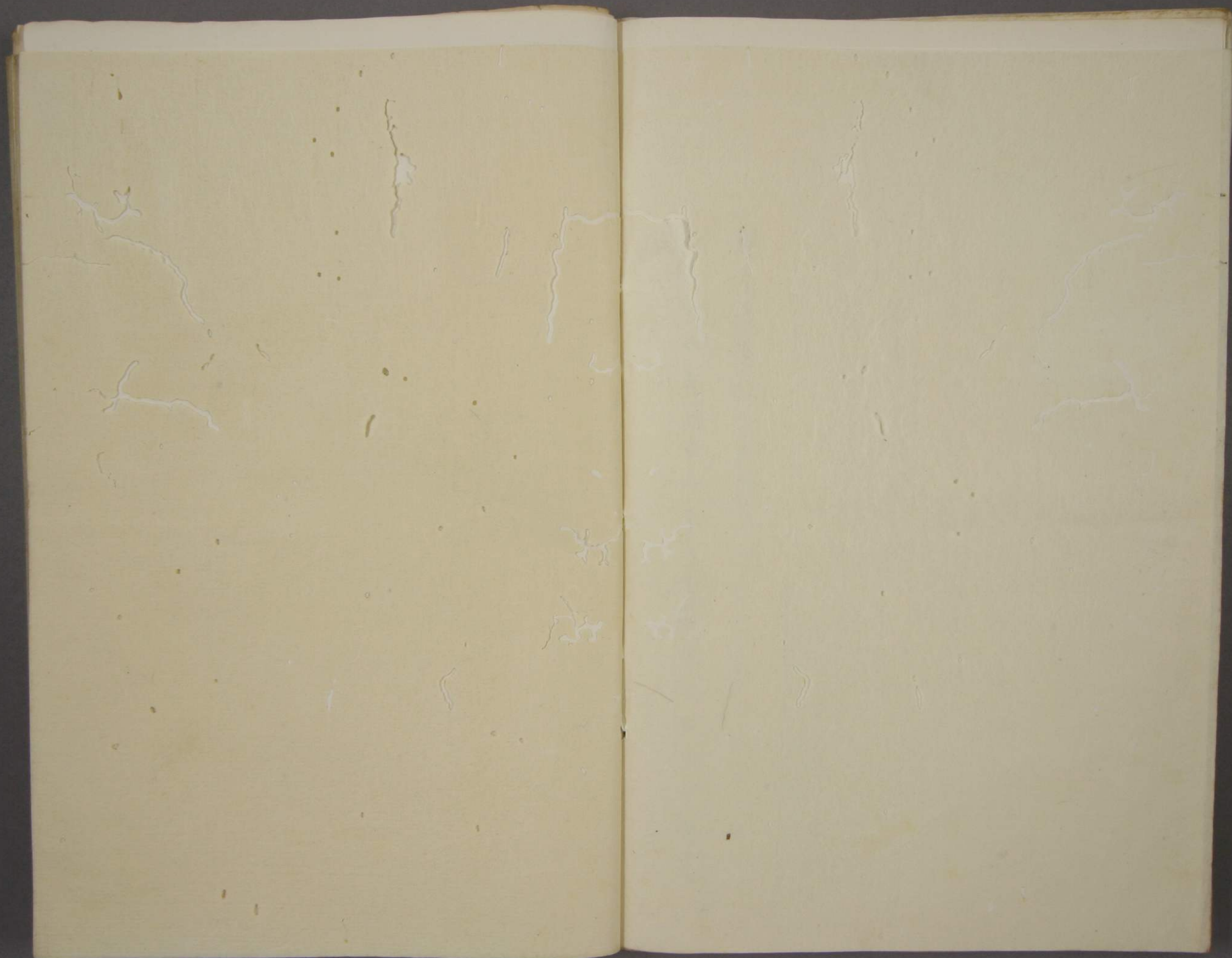
右ス・倫敦 ビュルチン・レーン 第十一番小住とるフレ

ドリックルヒュツチンスの面前よりエミール、エ

ルンデル其社中の卷をタルソクレイと共に
姓名を手記す所あり

立合役

フレドリックルヒュツチンス 手記



和解
書翰

千八百七十一年二月一日

日本政府大藏卿閣下

拜啓仕度此度カルギル氏アメリカの熱氣船なる
ロンドンへ歸着仕度同人の望み小依る私へ
尊君に別紙に書寫を差上申度右をレイ氏と淡
判決定の方をギレクトルより申越後書状に
寫し附座候

私共相願申候儀に用達金に儀に付政府より存
寄るに貸金持主より返金被成度思召に候哉否
且鐵道企む為此上又々所借受被成度思召に候哉

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈月

通達可被下度

閣下自身より又閣下而擇命せしむる後
人より横濱に江左よりカルギル氏に面會の上
而相談可被下度難有被存可候

シヨセフリユツセル

カルギル氏に千八百七十年第十二月八日

ヘットオッフヒース 為替所より利書状に抜抄
本店

日本政府に左し如く而通達被下度日本用達
金に儀に付レイ氏及びロンドンパリスに仲間
エルランゲル氏等と談判終り決定に及ばば近私
共種々心配仕漸く事済む相成申候
右決定相成及近小私共困却致後難事レイ氏と
レイ氏を助け用達金を出來致させ且同人より
日本政府と約定し事を委任せしむる人々之間
に起る後毛つは合より起る

此用達金に付レイ氏と一件と如何なる見
込ありとせよ他と仲間者真實に意を以る
約定取結に入り及ハ疑い無く及公平に論を以る
云ふ時に此仲間者ハ相當に償を能く可き事と
及且私共日本政府より其信と名を失はぬや
事ハ至當に所置被り各事行要と存し日本
政府も義理を極くモや及又ハ其金に借受
人々及い之を周旋あたる者達を處するに
取扱方不當なりとハ傍りて将来歐羅巴
日本政府も金銀を貸す事ハ危み及極なる事

ハ毛頭有之間敷様小相濟ませ申後
右に付私共ハ僅り七万ポンドの拂方にて此事片
付及い甚と満足に存及金に乃内より用達金
を周旋致し及入費金と相場違ひ出金の人々の
利益とスカルーデル氏の取扱ひ役料と并り公
私諸入用印紙税新聞公料等皆相濟申後
右に通日本政府よりハ貸金持主方イングラ
ンの為替所との約定乃外ハレイ氏と乃約定ハ
然て手切及相成申後但ハ為替所の約定ハ右用達
金の證據小及右用達金に取扱ハ今會社の手

小要任致し有る候

私共古の如き僅乃柿高より首尾能く後來甚困
難より及ふ可き約束の條相濟多ふは政府の爲に
相祝し申候且金子損徳の支り付て古の如き
僅乃金高より長引し求債の相止まらるる甚都合
なり此次第小候

政府の第一乃目的古の如き首尾能く相濟すも
多用達金を返済し可き告諭り從て所置致し可
く私共猶豫致居候(日本政府へ問合せり及ひし
間)右用達金を種々乃諸難支り拘り以政府より不

都合おとさば條約にて出来せし者には是下御
存し通り右延引し義に於ては私共一己に
存し寄るも無く日本政府より諭告し又別紙(八)に
有之候ソリシトルノ書状ト又私共相談ニ及ぶ
るはウエノ氏に説く元は或る事、後金子返
済し義に付種々なる方、是下の能く御存知と
十分御議論ありし所あり別紙中と候
及ふに候

日本政府へ右に種々なる模様御報告被下政府
に説き早速御知しを可被下候其間に私共は新

規用達金と下案を接し是の方へ御贈可申事若
御好むに依り、御都合次第出来次第致置可申
事且又政府より二月一日利息は拂ふが後運
上用達金と返金とんと思召に依り、百に事為
さる可く後利共と説き、百ポンドと申出さる
事然る可く存心勿論右に貸金持主と承知し
上あつて、古く返済相成難き故に御坐候
別紙(B)ノ覺書と差上申候右より大概レイ氏及
其仲間、終判取消の爲に拂ふ金高ノ譯大凡
相知可申候且千八百六十九年十二月十四日

及び二十二日レイ氏との元来ノ約定に差出
申候且又別紙に七萬ポンドの請取レイ氏及公
エルランゲル氏及び仲間、因て名義致候皆済
し書付の差上申候
元来ノ約定書をサウサンプトンより差上申候
モルレイ氏及びヒュッテンス氏方ニハノタリイ
ノ寫書所持致候千八百六十九年十二月十四
日及び二十一日、皇帝ノ命書右ノ用達金と證
授する兩國重々共にイングラントに為替所と
相納メ有之候

別紙(△)

日本用達金

總々事情を熟考致後、私共存候ても争訟又
仲人を入れ、後事、公布する所と見無し、
レイ氏
及、ミエルランゲル氏、及、其仲間、及、ミスクルー
デル氏、と求償を相濟せ、
ポントを拂ひ、後事、デレクトルの方の爲、
且、日本政府、最良の利益、存せ、
の金子相拂ひ、請取、
レイ氏、及、其仲間、と決定の條約を、日本國一報

告致し日本政府より金子を返さんと決定有るに
非んも其迄に衆人は金子返済せんと申し出られ
ざる方可然存る

用達金返済の儀は公私共の見込にて右も唯一
の目的を得る為の手立ちなりと存る目的として
氏と遠きけることと云ふも此目的他の手立ちを
得らるる政府も金子差出さざる方甚宜しく且
左様致さんと欲するなり

日本政府も此とを済む為の七万ポンドを拂出而して
衆人は百万ポンド返し且猶錢道入費は供せんと為

猶十方ポントを要し我れはよ於て便宜として承知
有之間敷と存るモルレー及びヒエツチンス

千八百七十年第十一月九日ロンドン

別紙(B)

覚書

日本政府と為すオロウィンタールバング會社と
レイ氏及び其仲間と者と皇帝の運上用途金と
事件は於て約定の主意

第一 現在費する金子

レイ氏より日本政府へ拂ひ

一百万ポンドと於て九十八ポ

ンドと一百万ポンドの間の差異

貸金出に該者は拂ひ

第五月より第八月まで

一万二千五百ポンド

見積り金に代り利息

一百万の借金に付スクルー

デル氏及び仲間と拂ひ取り一万ポンド

扱ひ役料但し百に付一の割合

世活料 二千五百ポンド

一百万ポンドに 2162 の 一千二百五十ポンド

手形と印紙税

法律上諸入

用新聞公告料 三千五百ポンド

第二残り金用達金二十二万

五千ポンドに付十二年の間 二万の二百五十ポンド

年々百に付三の利息に代り償ひ

総計七万ポンド

ロンドン

千八百七十年第十一月九日

